

論文内容の要旨

氏名	三浦 公郎
CLINICAL RESULTS AFTER TOTAL TALAR REPLACEMENT WITH ALUMINA CERAMIC PROSTHESIS EVALUATED USING SAFE-Q FOR OSTEONECROSIS OF THE TALUS (和訳) 距骨壊死に対するアルミナセラミック性人工距骨置換術の SAFE-Q を用いた臨床成績	

論文内容の要旨

背景：この後ろ向き研究の目的は距骨壊死に対して人工距骨置換術を施行した患者の臨床成績を Self-Administered Foot Evaluation Questionnaire (SAFE-Q) を用いて評価することである。SAFE-Q が術後改善することを仮説とした。

方法：この調査では 2012 年から 2018 年に人工距骨置換術を施行し術前・術後に SAFE-Q を用いて評価した 22 人 24 足を対象とした。術前と術後 3 年での SAFE-Q スコア, Japanese Society for Surgery of the Foot standard rating system scale (JSSF scale), 足関節可動域を Wilcoxon の符号付順位検定で評価した。

結果：SAFE-Q スコアは全ての下位尺度で改善を認めた。「痛み・痛み関連」は 42.2 ± 23.9 から 84.6 ± 12.6 へ改善し ($p < 0.01$), 「身体機能・日常生活の状態」は 36.3 ± 25.2 から 73.4 ± 20.5 へ改善し ($p < 0.01$), 「社会生活機能」は 34.1 ± 34.8 から 81.0 ± 25.3 へ改善し ($p < 0.01$), 「靴関連」は 41.3 ± 28.9 へ改善し ($p < 0.01$), 「全体的健康感」は 36.7 ± 32.1 から 76.9 ± 29.3 へ改善した ($p < 0.01$)。

結論：22 人 24 足の距骨壊死に対してアルミナセラミック製人工距骨を用いた人工距骨置換術にて治療を行い JSSF scale, SAFE-Q を用いた評価にて臨床成績は良好であった。アルミナセラミック製人工距骨による人工距骨置換術は距骨壊死に対する効果的な治療法といえる。